

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	503	科目名	コミュニケーション学事例研究3	サブネーム	地域とコミュニケーション		
連携機関名	科学技術振興機構	レベル	基礎～中級	講義枠	土曜日 集中	講義時間	10:00～11:30,11:50～13:20, 14:00～15:30,15:50～17:20
科目概要	環境汚染、事故災害等の発生が社会問題となっていることから、地方行政や企業が取り組んでいる環境問題の事例を紹介し、また頻発する地震の不安に対して地震災害や地震対策等の現状を紹介し、コミュニケーション手法と住民との対話事例を交えて、地域とコミュニケーション問題について議論する。						

サブタイトル	講義タイトル	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
環境問題	1 ケーススタディ 1 (地球環境)	地球環境への取り組みを紹介し、事例としては平成12年に神奈川県で発生したダイオキシン河川流出事故を取り上げダイオキシンの健康毒性等について議論し、合わせて地域で取り組む地球温暖化対策について神奈川県の事例をもとに議論を展開する。	4月15日	共通講義棟 1号館 205教室	加藤 洋	神奈川県農政部環境計画課
	2 ケーススタディ 2 (自動車交通公害)	NOx法が施行され自動車の排ガス規制が実施されてきているが、首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)では自治体が独自に条例を定め、ディーゼル車排ガス規制を実施しなければ環境基準をクリア出来ないのが現状である。ここでは神奈川県が行った事例をもとに議論を展開する。			深澤秀司	神奈川県環境農政部大気水質課
	3 ケーススタディ 3 (アスベスト問題)	我が国のアスベストの使用は歴史が古いが、最近の新聞報道等によるとアスベストによる健康被害が続出している。本講義ではアスベスト規制の実態と代表的なアスベスト被害の事例からアスベスト問題の根幹を学ぶ。			青山尚巳	神奈川県農政部環境計画課
	4 ケーススタディ 4 (アセスメント事例)	開発事業による環境への悪影響を未然に防止し、持続可能な社会を構築するため環境アセスメント(環境影響評価)制度がある。本講義では、神奈川県の環境アセスメント事例をもとに、よりよい事業計画を作成していく過程を紹介し、環境アセスメント制度を学ぶ。			小林幸文	神奈川県足柄上地域県政総合センター環境部
	5 ケーススタディ 5 (循環型社会)	循環型社会形成推進基本法が平成12年に施行されて以来、廃棄物リサイクルの法体系が見直されてきている。本講義ではリサイクル事例やゼロエミッション工場の出現、更にエコタウンの登場などの事例を紹介し、循環型社会の理念を学ぶ。	4月22日		太田 進	新日本石油化学(株)社会環境安全室
	6 ケーススタディ 6 (企業の環境対策)	京都議定書に批准して以来、企業にとって、環境安全問題は最重要課題となっている。ここでは川崎コンビナートのエチレンセンターでのレスポンスブルケア活動などの具体的対応事例を紹介し、論議を展開する。			川端鋭恵	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター
地震災害	9 ケーススタディ 9 (十勝沖地震とタンク火災)	2003年に発生した十勝沖地震では、長周期地震動の影響で苫小牧市の石油コンビナート施設に大きな被害が出た。ここでは石油タンク火災による地域への影響に焦点をあて、地震対策等について問題点を議論する。	5月13日	石田和雄	石川島播磨重工(株)エネルギープラント事業本部	
	8 ケーススタディ 8 (阪神淡路大震災)	平成5年に神戸市を中心に襲った阪神淡路大震災は、被害の大きさもさることながら大都市直下を襲った大地震であり、地震問題を根本から見直すテーマが数多く発生した。ここでは耐震設計の視点と地震対策について事例を学ぶ。		堀 郁夫	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター	
	7 ケーススタディ 7 (地震ハザードマップの読み方)	阪神淡路大震災の以降は、地震発生および地震災害のリスクが前面に出て、地震対策特別措置法も施行された。この法律の主旨を踏まえ各自治体は地震ハザードマップを発表するようになってきた。ここではハザードマップの読み方を解説しながらハザードマップについての理解を深める。		杉原英和	神奈川県防災局防災消防課	
	10 ケーススタディ 10 (新潟中越地震他)	2004年新潟中越地震が発生し、大きな被害が発生した。内陸のプレート内部で発生する地震は、震源付近で大きなゆれが発生し、局所的に壊滅的な被害を被るが、内陸直下の地震の問題点について事例を紹介しつつ議論を展開する。	5月20日	太田 進	新日本石油化学(株)社会環境安全室	
	11 ケーススタディ 11 (スマトラ沖地震他)	2004年に発生したスマトラ沖地震による大津波による住民や観光客に多くの死傷者がでた。この津波災害については、我が国においては海溝型地震の発生確率も高まっており、沿岸部の被害が予想されることから津波発生メカニズムと津波遡上による被害事例を紹介し、津波対策について学ぶ。		堀 郁夫	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター	
	12 ケーススタディ 12 (企業の地震対策)	危険物や高圧ガスを多量に保有する化学企業は、その取り扱う化学物質に対して特段の耐震性を維持することを義務付けられている。ここでは高圧ガス施設や危険物施設の耐震対策の事例を実機の事例を紹介し耐震対策について学ぶ。		川端鋭恵		
地域とコミュニケーション	13 ケーススタディ 13 (社会合意形成の手法)	社会技術研究開発センターで開発した「化学企業の安全性社会的合意形成支援システム」の構築過程の紹介と社会への実装結果を紹介し、企業と地域社会とのコミュニケーション問題について意見交換する。	5月20日	小山富士雄	東京大学環境安全本部	
	14 ケーススタディ 14 (企業のクライシスマネジメント事例)	大規模な事故災害が発生した際の緊時対応が社会問題となるケースが多いことから、事故災害事例を紹介しつつ、化学企業におけるクライシスマネジメントの実態を紹介し、地域社会への対応を考慮したクライシスマネジメントのあり方と地域とのコミュニケーション問題について議論する。				
	15 ケーススタディ 15 (市民との対話事例)	化学物質の排出移動登録(PTR)制度施行実績とレスポンスブルケア活動の状況について、地域対話事例をNPOの立場から解説し、議論を展開する。				